

---

# 星空は見えただか？

まかない

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

星空は見えたか？

### 【Nコード】

N9611H

### 【作者名】

まかない

### 【あらすじ】

常に好きな人を独り占めしたい女の子の気持ち。

(前書き)

ちなみにこれは、2008年作品。

ポケットの知らせに書いてあるものとは違う作品です。

これとはまた別に書きますので。

ああ、暖かい部屋だ。私はこの1LDKのリビング 和室の部屋が好きだ。この畳の匂いと、部屋の片隅に置かれた本棚の古い匂いが好きだ。しかし、中央にソファやその正面にTVなど、似合わない物まである。勿論、これは私の趣味ではなく、私の彼が置いた物である。

私には長年付き合っている彼がいる。彼はとても優しく、私が悲しい時やないている時に頭を撫でしてくれるのが私はとても好きだ。私は彼の事が好きだ。彼も私の事を好きだろう。だけど彼は浮気性なのか、私というものがありながら常に彼女をつくってくる。しかし、最後には私が残るのだ。それはきつと彼が一番好きなのは私であるからだ。だけど彼は懲りていないのか、それとも私の事が好きだという気持ちに気付いていないのか、また今日も彼女を作ってきたらしく、家にまで連れ込んできた。

「わぁー素敵なお部屋ね。何々、このアイドルが好きなの？」

女が部屋に入るなり喋り始めた。うるさくつてたまらない、とにかくに私は耳を閉じた。不機嫌な態度を見せ付けるものの女は気付かない。攻撃してやるうか。

「あー！ この子が貴方の言ってた子ね。可愛いー」

女が私の体に触れてくる。気色悪いことこの上ない。それにこの女に可愛いなどと言われる筋はない。まあ、年齢が低いから可愛く見えるのも当然だが、美人と言って欲しいものだ。

「んー何だか私は嫌われているのかなあ？ さっきからそっけない

態度ばっかりなんだけど」

当たり前だ。私の彼に手を出す女なんかを好きになるものか。私はまだ幼いが、それでも彼の彼女だぞ。いい加減に手を離せ、とばかりに手で手を払った。

「まあ、仕方ないっか。あ、それよりもこの時間帯って面白いＴＶやってるよ」

ふん、彼の事を何も知らないんだな。彼はＴＶは見ないんだよ。彼が好きなのは読書とゲーム、それと勉強だ。勉強が好きだなんて流石、私の彼だけある。

「あ、ＴＶ見ないんだ？ でもでも、面白いのやってるよ？ ほら見てみて、この芸人さん私好きなの」

彼が嫌がってるじゃないか、いい加減にしろこの女め。彼はこの時間帯は読書と決まっているんだよ。それを邪魔するな。あ、彼ったらもう！ 流されるままに見てるし……。

「ね？ 面白いでしょう。あ、君も見ない？」

見るか阿呆、とばかりに私はそっぽを向いた。しかし彼が私の事を抱き上げて膝に乗せてきたので、仕方なく見る事にした。やっぱり彼の膝は良いな。

「あ、やっぱり彼の言う事は聞くんだ？ それにしても膝の上なんて羨ましいなー。でも私だと重いかな、テヘツ！」

テヘツ！ とか可愛いと思ってるのか？ 彼はそういうのは嫌い

ではないが好きでもないんだよ。やるならもつと可愛らしくやれ。

「あ、TV終わっちゃった。ねえ、外行かない？ この時期だと寒いけど星空とか綺麗だよ」

今日は曇りだよ馬鹿女。見えるか。え、彼は行くのか？ この女め、そんなに私と彼を引き離して二人きりになりたいのか。

「あ、君も行かない？ 中々この時間に外出られないでしょ？ 星空綺麗だよー？」

チツ、さつきから星空星空と……。本当に星空が見えたらお前を彼の女と認めてやるよ！ どうせ空は曇って見えないだろうけどね。それと確かに出られないが……誰が行くか！ ふん、せいぜい今の内に楽しむが良さ。最後に残るのは私なのだからな。

「この子行かないみたいだね。じゃあ二人で行こっか？」

女が玄関を開けて外に出た。外の寒い風が部屋に舞い込んで、彼が体をぶるつと震わした。おいおい、大丈夫なのか？ と心配する私を他所に、彼は私に『じゃあ、留守番お願いな』と言って来た。ボタン、とドアがしまつて、ガチャリと鍵がかけられる。一気に二人も居なくなつて寂しくなつた部屋で私は遅れて返事をした。

「じゃあー！」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9611h/>

---

星空は見えたか？

2010年10月10日02時54分発行